

平成31年 2月

松本顕佑 学位論文審査要旨

主 査 内 田 伸 恵
副主査 西 村 元 延
同 藤 井 進 也

主論文

Compressed Amplatzer Vascular Plug II embolization of the left subclavian artery for thoracic endovascular aortic repair is efficient and safety method comparable to conventional coil embolization

(胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術における左鎖骨下動脈の圧縮 Amplatzer Vascular Plug II塞栓術は、従来型のコイル塞栓術に匹敵する効果および安全性を持つ方法である)

(著者：松本顕佑、大内泰文、矢田晋作、足立憲、遠藤雅之、高杉昌平、藤井進也、橋本政幸、神納敏夫、小川敏英、藤原義和、佐伯宗弘、西村元延)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 腹腔内出血をきたした胃GISTに対し動脈塞栓術を施行した1例

(著者：松本顕佑、小林正美、武田洋平、柴田俊輔、山根哲実、小川敏英)

平成27年 臨床放射線 60巻 577頁～581頁

審査結果の要旨

本研究は胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後の左鎖骨下動脈 (LSA) を介した動脈瘤内への逆行性血流 (type IIエンドリーク) を予防するためのLSA塞栓術における、コイル塞栓術 (CCE法) と新しいAVP II圧縮法を用いた塞栓術 (CAE法) について後方視的に比較検討したものである。その結果CAE法は、CCE法と同等のLSA塞栓効果を得てtype IIエンドリークを予防でき、合併症が少なく安全で、塞栓材料費用を低減できることが判明した。本論文の内容は、LSA塞栓術におけるCAE法の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。